

# 信州大学 Web 出願時アンケート結果を用いた志願者動向分析

—出願大学決定における高校教員の影響—

一之瀬 博, 木村 建, 海尻 賢二, 平井 佑樹 (信州大学)

信州大学では、地方国立大学として志願者数を維持しつつ、入学者受入れの方針に沿う学生を確保するにはどうすべきかを継続的に検討しており、入学時アンケートを用いた検証を行ってきた。しかし、このアンケートは本学入学者のみ対象であり、志願者動向を検証するためには、より多く回答を集めて分析する必要がある。そのため、2019 年度入試より導入した Web 出願システムにアンケートを組込み、本学未入学者からも回答を得た。本研究ではそれを用い、志願者の出願大学決定における高校教員の影響を検証した。その結果、志願者の出身地によって異なる回答傾向が見られ、高校教員の影響の強弱で広報の方法を変える必要があること等を確認した。

キーワード：入試広報、出願時アンケート、高校教員

## 1 はじめに

### 1.1 背景

文部科学省の学校基本調査によると、高校等卒業者は 2000 年度の約 133 万人から 2019 年度の約 106 万人へと 27 万人減少している。一方、4 年制大学は 2000 年度の 649 大学から 2019 年度の 782 大学へと 133 大学増えており、すでに多くの大学で定員割れを起こしている。さらに 55 年ぶりに国がつくる新しい大学制度として、2019 年度に実践的な職業教育を行う「専門職大学」「専門職短期大学」「専門職学科」が創設され、2020 年 4 月に日本初の専門職大学が誕生した。このように 18 歳人口が減っているにもかかわらず多様な大学等の高等教育機関が新設されている状況において、今までどおり学生を確保していくことは非常に困難であり、大学運営においても、より効率的かつ的確な学生募集方法を検討することは喫緊の課題である。

学生募集においては、前述のような社会全体的な要因や、大学の知名度・入試難易度・入試科目等の様々な要因が志願者数の増減に影響を与える。国公立大学の入試では、さらに大学入試センター試験の結果も志願者数の増減に大きな影響を与える。国公立大学の一般入試を受験する場合は、教育産業が予想するボーダーライン（合格可能性を判断する一指標）によって受験大学を決定するケースが多く、高校教員の進路指導によって受験大学の変更・決定がなされるケースも散見される。また、地方大学では、その立地条件も志願者数の増減に影響を与える可能性がある。

2020 年度入試では、2021 年度入試から実施される大学入学共通テスト、(実施予定だった) 英語成績提

供システムの導入や国語・数学記述式問題の導入をはじめ、入学定員の厳格化に伴う難関私立大学を中心とした入試の難化等の様々な要因で受験生の安全志向が強くなったとみなされている。これらの影響から、文部科学省の「令和 2 年度国公立大学入学者選抜の確定志願状況及び 2 段階選抜実施状況（前期日程）について」によれば、国公立大学の確定志願者数が約 3 万人減少し、大学入試センター試験導入以来、最も低い志願者数・志願倍率となった。

### 1.2 目的

各大学では、以上のような背景も考慮しつつ学生募集方法に関する研究が行われている。特に、入試広報については、アンケート結果を用いた検証が多数行われている。例えば、吉村ら (2010) は、受験大学決定の要因に「国立大学であること」「大学入試センター試験の成績」が含まれていることを明らかにした。吉田ら (2018) は、入試広報アンケートの結果をもとに、受験生が志望大学を選ぶ上で影響を受けた人物・利用した広報媒体・重視した大学の特徴について検証した。また、雨森 (2016) は、入試形態と合否判定順位の関係から、高校への広報アプローチの方法・効果について述べている。

信州大学でも入試広報に関する入学時アンケートを実施し、受験生が本学に出願する上で参考としている広報媒体や本学志願理由等について分析してきた。しかし、そのアンケートは入学者のみを対象としたものである。本学の場合、入学者約 2,000 名に対し志願者がその 3~4 倍いるため、より多くの回答を効率的に集める方法を探っていた。一方、本学では 2019 年

度入試から、一部の入試で Web 出願を開始することになり、その運用方法の検討時に「Web 出願時にアンケートへの回答依頼」ができることを確認した。そこで、本学では Web 出願システムに入試広報に関するアンケートを組み込み、本学志願者から回答を得た。

本研究では、Web 出願時アンケート結果を用いた志願者動向分析として、現在の大きな入試広報の対象である高校教員が、生徒の出願大学決定において影響しているか否かについて検証した。

## 2 Web 出願時アンケート

### 2.1 実施概要

本学の Web 出願時アンケートの質問項目は表 1 に示す通りである。アンケートへの回答は任意であり、一部のみ回答することも可能である。Q3 が出願大学決定に係る質問項目であり、(a) 受験生の内発的志望：やりたいことが学べる、どうしても進学したい、資格・就職、(b) 地理的志望：長野県にある、地域に密着している、自然環境、(c) 入試システムによる志望：難易度、入試科目・配点など、(d) 外発的な要因：先生の勧め、親の勧めなど、の大きく 4 つのカテゴリで構成されている。

本研究では、志願者数が多い推薦入試 I（大学入試センター試験を課さない。以下、推薦 I）、一般入試前期日程（以下、前期）および後期日程（以下、後期）の 3 区分へ出願した者の回答を利用した。本研究では特に、Q2-1(6)の「高校の先生からの情報（以下、先生情報）」と Q3(10)の「高校の先生の勧め（以下、先生の勧め）」の選択者に注目した。

表 2 に回答者数及び志願者数を示す。2019 年度入試で上記 3 区分に出願した者はのべ 8,183 名であり（同一志願者が複数の区分に出願している場合もあるため「のべ」としている）、そのうち Q1 から Q3 すべてに回答した者がのべ 6,311 名、一部回答した者を含む総回答者はのべ 6,878 名であった。2020 年度入試では、志願者のべ 7,200 名のうち Q1 から Q3 すべての回答者はのべ 5,607 名、一部回答者も含めた総回答者はのべ 6,041 名であった。

### 2.2 全体の回答傾向

図 1-1～1-3 に推薦 I、図 2-1～2-3 に前期、図 3-1～3-3 に後期の回答状況を示す。各グラフでは 2020 年度入試における選択率が高い順に項目が並んでいる。図に掲載されていない項目の選択率は、付録の表 A～D で示す。本節では、各入試区分における「先生情報」や「先生の勧め」の順位に注目する。

表 1 Web 出願時アンケート質問項目（2019 年度入試と 2020 年度入試ともに同じ）

<p>Q1. 本学を志望大学のひとつとして決めた時期</p> <p>(1)高校入学前 (2)高校 1 年 4～9 月 (3)高校 1 年 10～3 月 (4)高校 2 年 4～9 月 (5)高校 2 年 10～3 月 (6)高校 3 年・既卒後 4～6 月 (7)高校 3 年・既卒後 7～9 月 (8)高校 3 年・既卒後 10 月～センター試験前 (9)高校 3 年・既卒後センター試験後</p> <p>Q2-1. 本学の情報を得るのに利用したもの（複数選択可）</p> <p>(1)大学案内 (2)学部・学科等案内 (3)本学ホームページ (4)本学携帯サイト (5)先輩からの情報 (6)高校の先生からの情報 (7)家族からの情報 (8)進学相談会 (9)本学教職員の高校訪問 (10)本学の模擬授業 (11)全学合同オープンキャンパス(OC) (12)学部 OC (13)本学キャンパス見学 (14)受験雑誌 (15)進学関係 Web ページ (16)模試の結果 (17)セ試自己採点結果やそれに基づく予備校情報</p> <p>Q2-2. 上記 Q2-1 で選択したもので、役に立ったもの (上位 1～5 位まで選択、5 位まで選ばなくても良い)</p> <p>Q3. 本学に受験を決めたポイント（複数選択可）</p> <p>(1)どうしても進学したい (2)入試の出題科目が良い (3)長野県にある (4)地域に密着した大学である (5)自然環境豊かな地域にキャンパスがある (6)難易度的に良かった (7)やりたいことが学べる (8)就職しやすそう (9)取りたい資格が取得できる (10)高校の先生の勧め (11)親の勧め</p> <p>Q4. 本学以外で受験する（受験した）私立大学 (3 つ以内自由記述)</p>
--

表 2 Web 出願時アンケート回答者数及び志願者数

年度		推薦 I	前期	後期	総計
2019	総回答者	733	3,649	2,496	6,878 (84.1%)
	全問回答者	707	3,350	2,254	6,311 (77.1%)
	未回答者	32	553	720	1,305 (15.9%)
	志願者	765	4,202	3,216	8,183
2020	総回答者	793	2,969	2,279	6,041 (83.9%)
	全問回答者	781	2,756	2,070	5,607 (77.9%)
	未回答者	24	470	665	1,159 (16.1%)
	志願者	817	3,439	2,944	7,200

#### 2.2.1 利用した情報源・最も役に立った情報源

推薦 I では、2020 年度入試における利用した情報源 (Q2-1) で、本学ホームページ (HP) に続き、学部オープンキャンパス (OC)、先生情報の順で選択

率が高かった。最も役立つ情報源 (Q2-2 の 1 位) では学部 OC に続き、HP、学部案内の順で高かった。

前期では、2020 年度入試における利用した情報源で、HP に続き、先生情報、家族からの情報の順で選択率が高かった。最も役立つ情報源では HP に続き、大学案内、先生情報の順で高かった。

後期では、2020 年度入試における利用した情報源で、HP に続き、先生情報、自己採点結果等予備校情報の順で高かった。最も役立つ情報源では HP に続き、先生情報、大学案内の順で高かった。

以上のように、いずれの入試区分でも高校教員は情報源となっているものの、それが最も役に立ったかど

うかを見ると、一般入試では HP や大学案内につぐ順位であるが、推薦 I では 2019 年度入試で 5 位、2020 年度入試で 6 位であった。このことから、入試区分によって、先生情報の順位が異なることが分かる。

### 2.2.2 本学を受験することに決めた要因

図 1-3、図 2-3 および図 3-3 を見ると、いずれの入試区分でも「やりたいことが学べる」「自然環境が豊か」「長野県にある」が上位を占めている。「どうしても進学したい大学だった」は、2020 年度入試において (推薦 I 67.7%) > (前期 39.1%) > (後期 16.9%) の順で選択率が減少しており、本選択肢の未

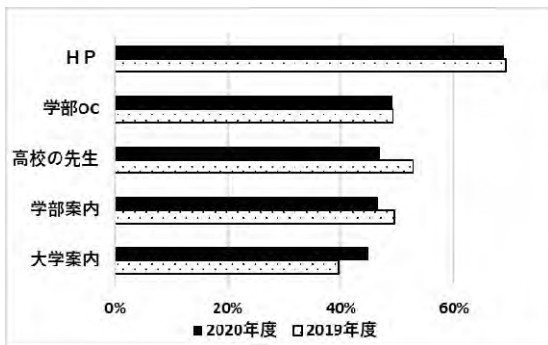


図 1-1 利用した情報源 (推薦 I)

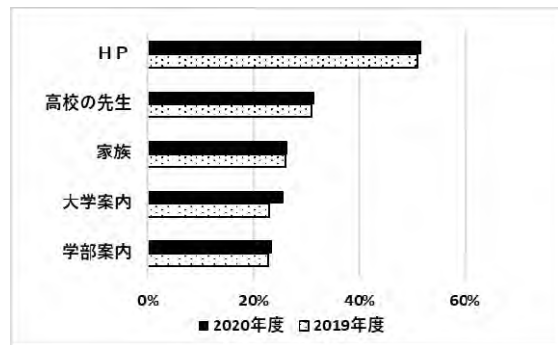


図 2-1 利用した情報源 (前期)

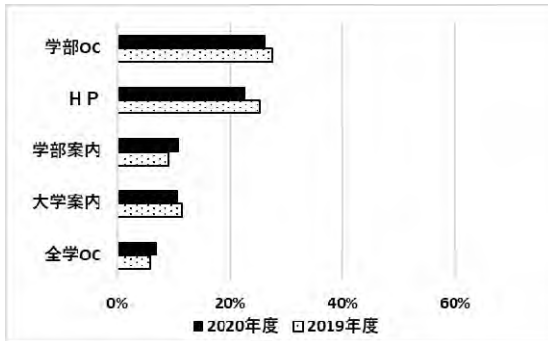


図 1-2 最も役立つ情報源 (推薦 I)

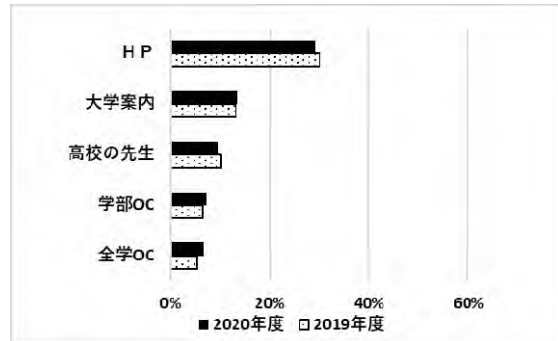


図 2-2 最も役立つ情報源 (前期)

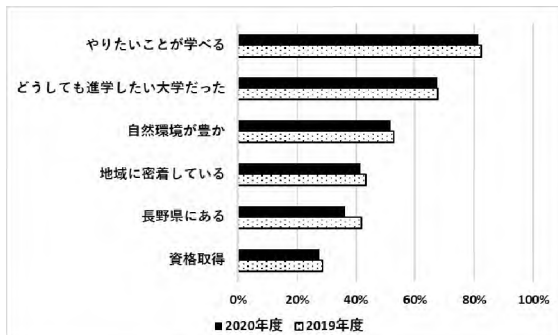


図 1-3 本学を受験することに決めた要因 (推薦 I)

注) 図 1-1~1-3 2020 年度: N=793 2019 年度: N=733

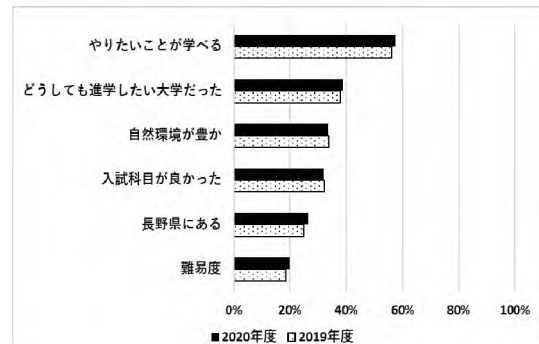


図 2-3 本学を受験することに決めた要因 (前期)

注) 図 2-1~2-3 2020 年度: N=2,969 2019 年度: N=3,649

選択者は、本学への入学が第一志望ではないものの本学を受験大学として決定していた可能性がある。

「先生の勧め」はいずれの年度・入試区分でも上位には入らなかったものの、それぞれ約15%の志願者が選択している（2019年度入試における推薦Iは18.1%で7位、前期は12.2%で10位、後期は17.1%で6位。2020年度入試では推薦I 15.6%で7位、前期は12.7%で9位、後期は16.8%で7位）。Q3は複数選択可能な質問項目であることを考慮する必要があるかもしれないが、「先生の勧め」が少なからず志願者の出願大学決定に影響を与えている可能性が明らかになった。

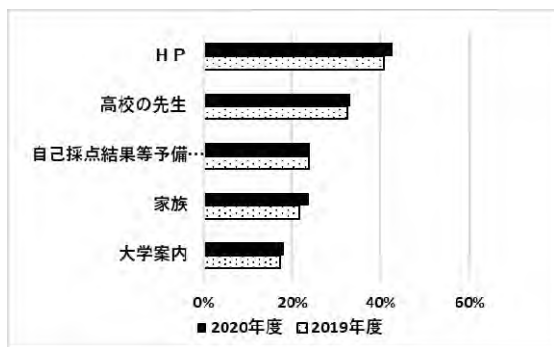


図3-1 利用した情報源 (後期)

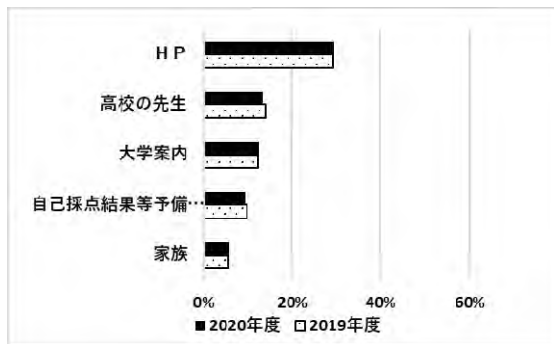


図3-2 最も役立つ情報源 (後期)

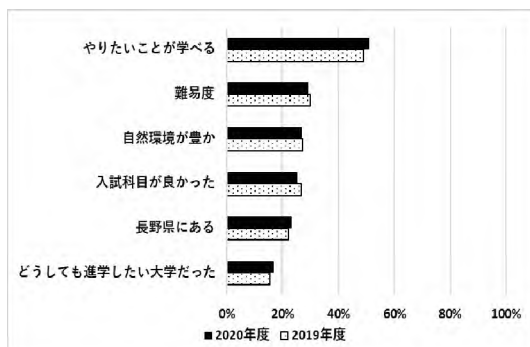


図3-3 本学を受験することに決めた要因 (後期)

注) 図3-1~3-3 2020年度: N=2,279 2019年度: N=2,496

### 3 出願大学決定における高校教員の影響

本章では「先生情報」あるいは「先生の勧め」を選択したか否かの違いから、出願大学決定における高校教員の影響を分析する。本章で示す結果は、すべて2.1節で述べた一部回答者の回答が含まれている。

#### 3.1 入試区分別の結果

表3-1および表3-2は「先生情報」および「先生の勧め」の選択有無（選択者が○印、未選択者が×印であり、以降の表も同様である）、および入試区分に分割して集計したものである。各表の括弧内は各入試区分における選択割合である。

表3-1や表3-2において、先生情報の有無によらず、先生の勧めだけを見ると、2020年度一般入試では（前期12.7%）＜（後期16.8%）と後期の選択率が高い。統計ソフトウェアRによる「2つの比率の差の検定」においても、5%水準で有意差が見られ（ $\chi^2(1) = 17.2, p = 3.4 \times 10^{-5}$ ）、2019年度入試でも同様であった。このことから一般入試では後期の方が教員の影響が強いとみて良いと考えられる。

また、先生情報がなく先生の勧めが出願の決め手になっている志願者がいずれの入試区分でも一定数おり、これについても一般入試では後期の回答率が高かった（2020年度： $\chi^2(1) = 7.2, p = 7.3 \times 10^{-3}$ ）。

表3-1 「先生情報」と「先生の勧め」の選択有無 (2020年度入試/入試区分別)

区分	先生情報	先生の勧め	
		○	×
推I	○	108 (13.6%)	265 (33.4%)
	×	16 (2.0%)	404 (50.9%)
前期	○	287 (9.7%)	648 (21.8%)
	×	89 (3.0%)	1945 (65.5%)
後期	○	281 (12.3%)	471 (20.7%)
	×	101 (4.4%)	1426 (62.6%)

表3-2 「先生情報」と「先生の勧め」の選択有無 (2019年度入試/入試区分別)

区分	先生情報	先生の勧め	
		○	×
推I	○	120 (16.4%)	267 (36.4%)
	×	13 (1.8%)	333 (45.4%)
前期	○	346 (9.5%)	785 (21.5%)
	×	101 (2.8%)	2417 (66.2%)
後期	○	325 (13.0%)	487 (19.5%)
	×	101 (4.0%)	1583 (63.4%)

表 4-1 「先生情報」と「先生の勧め」の選択有無  
(2020 年度入試/地域別)

地域	先生情報	先生の勧め	
		○	×
北海道・東北	○	28 (12.1%)	30 (12.9%)
	×	9 (3.9%)	165 (71.1%)
北関東	○	52 (13.7%)	80 (21.1%)
	×	19 (5.0%)	228 (60.2%)
南関東	○	98 (10.2%)	183 (19.1%)
	×	30 (3.1%)	649 (67.6%)
東京	○	48 (9.4%)	84 (16.5%)
	×	9 (1.8%)	368 (72.3%)
長野	○	108 (7.3%)	484 (32.6%)
	×	36 (2.4%)	856 (57.7%)
北越	○	59 (12.6%)	93 (19.9%)
	×	17 (3.6%)	299 (63.9%)
東海	○	165 (14.1%)	287 (24.5%)
	×	48 (4.1%)	673 (57.4%)
近畿	○	81 (13.8%)	101 (17.2%)
	×	26 (4.4%)	378 (64.5%)
中国・四国 九州・沖縄	○	37 (14.8%)	42 (16.8%)
	×	12 (4.8%)	159 (63.6%)

注) 北関東：茨城・栃木・群馬，南関東：埼玉・千葉・神奈川・山梨，北越：新潟・富山・石川・福井，東海：愛知・三重・岐阜・静岡。表 4-2 も同様。

表 4-2 「先生情報」と「先生の勧め」の選択有無  
(2019 年度入試/地域別)

地域	先生情報	先生の勧め	
		○	×
北海道・東北	○	26 (9.1%)	48 (16.8%)
	×	7 (2.4%)	205 (71.7%)
北関東	○	65 (15.7%)	81 (19.6%)
	×	19 (4.6%)	249 (60.1%)
南関東	○	119 (10.3%)	215 (18.6%)
	×	33 (2.8%)	791 (68.3%)
東京	○	52 (8.5%)	101 (16.4%)
	×	17 (2.8%)	445 (72.4%)
長野	○	130 (8.0%)	538 (33.2%)
	×	43 (2.7%)	911 (56.2%)
北越	○	80 (17.1%)	101 (21.6%)
	×	18 (3.9%)	268 (57.4%)
東海	○	183 (13.6%)	293 (21.8%)
	×	47 (3.5%)	822 (61.1%)
近畿	○	90 (13.1%)	116 (16.9%)
	×	22 (3.2%)	457 (66.7%)
中国・四国 九州・沖縄	○	46 (16.1%)	46 (16.1%)
	×	9 (3.1%)	185 (64.7%)

表 5-1 「先生情報」と「先生の勧め」の選択有無  
(2020 年度入試/教員対象説明会参加校出身別)

説明会	先生情報	先生の勧め	
		○	×
参加校 (55 校)	○	60 (10.2%)	171 (28.9%)
	×	34 (5.8%)	326 (55.2%)
不参加校	○	616 (11.3%)	1213 (22.3%)
	×	172 (3.2%)	3449 (63.3%)

表 5-2 「先生情報」と「先生の勧め」の選択有無  
(2019 年度入試/教員対象説明会参加校出身別)

説明会	先生情報	先生の勧め	
		○	×
参加校 (73 校)	○	93 (14.8%)	153 (24.3%)
	×	22 (3.5%)	362 (57.5%)
不参加校	○	698 (11.2%)	1386 (22.2%)
	×	193 (3.1%)	3971 (63.6%)

### 3.2 地域別の結果

次に、前節と同様に、地域別に集計した。表 4-1 および表 4-2 にその結果を示す。前節と同様の観点で地区別の状況を見ると、先生情報の有無によらず先生の勧めだけでは、いずれの年度・地域においても 10～20%程度となっている。また、本学のある長野県は両年度とも選択率の高さで最下位となっていることも分かる。このことから、長野県の志願者は教員の影響を受けにくい可能性があることが分かる。東京都でも同様に教員の影響を受けにくい可能性が考えられる。

### 3.3 高校教員対象説明会参加・不参加校出身別の結果

本学アドミッションセンターでは、3 年前から地域を限定して、高校教員対象説明会を実施している。この説明会に参加した高校に所属する志願者か否かで集計した結果を表 5-1 および表 5-2 に示す。

これまでの分析と同様に、先生の勧めだけを見ると、2019 年度は参加校の回答率が有意に高く ( $\chi^2(1) = 7.0, p = 8.2 \times 10^{-3}$ )、2020 年度は有意差が見られなかった。この理由は、参加校数の多さによるものと見られる。ただし、先生情報と先生の勧めがいずれも×印である志願者だけを見ると、両年度とも参加校が有意に低かった (2020 年度:  $\chi^2(1) = 14.7, p = 1.3 \times 10^{-4}$ , 2019 年度:  $\chi^2(1) = 8.9, p = 2.9 \times 10^{-3}$ )。

説明会参加校は本学への出願実績がある、あるいは参加時点で志願者がいる場合が多い。そのため、説明会の影響だけとは断定できないが、少なくとも志願者への情報提供に関し一定の効果があったと考えられる。

### 3.4 合格者と不合格者との違い

最後に、Web 出願時アンケート導入の効果を見るため、合格者と不合格者の違いについて分析した。表 6-1 および表 6-2 は、「先生情報」や「先生の勧め」と、各入試区分の可否に分割して集計したものである。

これらの表を見ると、例えば、2019 年度入試の前期では合格者と不合格者間に有意差があった ( $\chi^2(1) = 7.8, p = 5.1 \times 10^{-3}$ )。そのため、Web 出願時アンケートを実施することによって、今まで取得できていなかった不合格者の回答を取得することに意義があったと考えられる。本稿では「先生情報」や「先生の勧め」に注目したが、今後は他の項目についても、注目していく必要があるようだ。

表 6-1 「先生情報」の選択有無と可否  
(入試区分別)

年度	区分	可否	先生情報	
			○	×
'20	推 I	合格	114 (43.3%)	149 (56.7%)
		不合格	259 (48.9%)	271 (51.1%)
	前期	合格	380 (31.5%)	828 (68.5%)
		不合格	555 (31.5%)	1206 (68.5%)
	後期	合格	140 (34.3%)	268 (65.7%)
		不合格	612 (32.7%)	1259 (67.3%)
'19	推 I	合格	143 (53.4%)	125 (46.6%)
		不合格	244 (52.5%)	221 (47.5%)
	前期	合格	420 (34.0%)	814 (66.0%)
		不合格	711 (29.4%)	1704 (70.6%)
	後期	合格	138 (33.1%)	279 (66.9%)
		不合格	674 (32.4%)	1405 (67.6%)

表 6-2 「先生の勧め」の選択有無と可否  
(入試区分別)

年度	区分	可否	先生の勧め	
			○	×
'20	推 I	合格	34 (12.9%)	229 (87.1%)
		不合格	90 (17.0%)	440 (83.0%)
	前期	合格	157 (13.0%)	1051 (87.0%)
		不合格	219 (12.4%)	1542 (87.6%)
	後期	合格	88 (21.6%)	320 (78.4%)
		不合格	294 (15.7%)	1577 (84.3%)
'19	推 I	合格	43 (16.0%)	225 (84.0%)
		不合格	90 (19.4%)	375 (80.6%)
	前期	合格	159 (12.9%)	1075 (87.1%)
		不合格	288 (11.9%)	2127 (88.1%)
	後期	合格	80 (19.2%)	337 (80.8%)
		不合格	346 (16.6%)	1733 (83.4%)

## 4 まとめ

### 4.1 本研究の結論

本研究では、志願者の出願大学決定における高校教員の影響について入試区分別や地域別などの分析結果を示した。本研究の結果では、地域によって、先生の勧めにより志願者の増減に何らかの影響がある可能性を確認できた。18 歳人口減少期を迎え、広報活動を広範囲に行わなければならない状況では、高校教員の影響が強い地域とそうでない地域によって学生募集方法を変えるなど、費用や時間的なコストを考慮した効果的な広報活動を行うことも重要となってくる。

### 4.2 今後の課題

今後の中長期的な課題としては、前節で述べた効果的な広報活動の検討に加え、いかに第一志望の志願者を増やせるかが重要なポイントとなる。現状では 2.2 節で示したように、「どうしても進学したい大学だったから」の選択率が前期で約 4 割、後期で約 2 割となっている。そのため、吉村ら (2010) が示すように、大学入試センター試験の成績によって受験する大学が決まることが多い現状では、教育産業の予想するボーダーラインが、高校での進路指導に大きな影響を与えると考えられる。このような状況では、入試設計も学生募集において非常に重要な要素となる。本来、大学入試は入学者受入れの方針に基づいて行われるものであり、志願者数増減の影響を受けてはいけない。理想は、学力の 3 要素を十分に身につけた多くの第一志望生を入学者受入れの方針に沿った入試で選抜することだが、今後の大学進学者数の減少も勘案すれば、この理想と乖離していくかもしれない。

本研究では、志望大学決定における高校教員の影響を観点として Web 出願時アンケート結果を分析してきた。前述の中長期的な課題を達成するため、今後は異なった観点でも Web 出願時アンケート結果を分析していくことや、令和 3 年度入試特有のコロナ禍の影響についても調査を進める予定である。

### 謝辞

本稿の執筆にあたり、ご指摘・ご助言をいただいた査読者 2 名および本誌編集委員会に厚く御礼を申し上げます。また、関係データの取りまとめにご協力いただいた本学学務部入試課の二村剛史氏に感謝の意を表す。

### 参考文献

雨森聡 (2016) . 「入試広報戦略のありようについて」『大学入試研究ジャーナル』 26, 111-116.

吉田章人・並川努・坂本信 (2018) . 「新潟大学における入試広報アンケート分析」『大学入試研究ジャーナル』28, 127-132.

吉村幸・木村拓也 (2010) . 「新入生を対象とした入試広報活動に関する調査」『大学入試研究ジャーナル』20, 209-216.

付録

表 A Q2-1 選択率と Q2-2 「1 位」 選択率 (推薦 I)

選択肢	推薦 I			
	Q2-1		Q2-2	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
大学案内	39.7%	44.9%	11.4%	10.8%
学部案内	49.7%	46.7%	9.2%	10.9%
H P	69.3%	69.0%	25.2%	22.7%
携帯サイト	24.0%	24.8%	2.4%	1.5%
先輩からの情報	20.7%	23.1%	2.3%	3.3%
先生からの情報	52.8%	47.0%	6.5%	6.7%
家族からの情報	32.1%	28.0%	2.5%	3.2%
進学相談会	11.7%	14.1%	1.0%	1.5%
教員による高校訪問	7.4%	7.6%	1.6%	1.7%
模擬講義	11.2%	10.0%	0.6%	0.6%
全学合同オープンキャンパス	21.1%	25.9%	5.9%	7.0%
学部オープンキャンパス	49.2%	49.2%	27.6%	26.2%
キャンパス見学	22.1%	20.6%	1.7%	1.5%
受験雑誌	6.5%	8.4%	0.4%	0.1%
進学W e b	15.1%	17.5%	1.3%	1.5%
模試の結果	11.7%	11.1%	0.4%	0.5%
自己採点結果等予備校情報	2.5%	2.6%	0.0%	0.1%

表 B Q2-1 選択率と Q2-2 「1 位」 選択率 (前期)

選択肢	前期			
	Q2-1		Q2-2	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
大学案内	23.0%	25.8%	13.2%	13.5%
学部案内	22.8%	23.5%	6.8%	6.0%
H P	50.9%	51.7%	30.0%	29.1%
携帯サイト	11.4%	11.7%	2.1%	2.1%
先輩からの情報	13.6%	13.4%	3.6%	3.6%
先生からの情報	31.0%	31.5%	10.2%	9.7%
家族からの情報	26.1%	26.5%	5.7%	5.1%
進学相談会	4.7%	5.1%	1.0%	1.0%
教員による高校訪問	2.3%	2.8%	0.7%	1.0%
模擬講義	2.8%	3.2%	0.3%	0.4%
全学合同オープンキャンパス	11.0%	13.0%	5.5%	6.7%
学部オープンキャンパス	11.5%	13.0%	6.5%	7.2%
キャンパス見学	7.6%	9.6%	1.3%	1.4%
受験雑誌	9.8%	8.3%	2.2%	1.3%
進学W e b	14.4%	14.7%	3.6%	4.0%
模試の結果	14.4%	15.6%	1.5%	2.0%
自己採点結果等予備校情報	19.7%	21.4%	5.7%	5.7%

表 C Q2-1 選択率と Q2-2 「1 位」 選択率 (後期)

選択肢	後期			
	Q2-1		Q2-2	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
大学案内	17.2%	18.1%	12.4%	12.5%
学部案内	16.5%	16.1%	6.2%	4.9%
H P	40.8%	42.6%	29.3%	29.5%
携帯サイト	7.1%	7.3%	1.8%	1.1%
先輩からの情報	10.9%	10.4%	3.6%	3.3%
先生からの情報	32.5%	33.0%	14.0%	13.4%
家族からの情報	21.7%	23.7%	5.6%	5.9%
進学相談会	3.5%	4.9%	0.8%	1.3%
教員による高校訪問	1.9%	1.9%	0.6%	0.6%
模擬講義	1.4%	1.6%	0.3%	0.2%
全学合同オープンキャンパス	5.8%	6.6%	3.0%	3.5%
学部オープンキャンパス	7.0%	7.7%	3.6%	5.0%
キャンパス見学	4.7%	5.7%	1.1%	1.0%
受験雑誌	8.1%	6.0%	2.3%	1.6%
進学W e b	11.1%	11.5%	3.3%	3.7%
模試の結果	12.8%	12.6%	2.3%	2.9%
自己採点結果等予備校情報	23.7%	23.9%	9.8%	9.5%

表 D Q3 各項目の選択率

選択肢	推薦 I		前期		後期	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
どうしても進学したい大学だった	67.7%	67.7%	37.9%	39.1%	15.5%	16.9%
入試科目が良かった	10.9%	12.7%	32.2%	31.8%	26.7%	25.1%
長野県にある	41.9%	36.3%	24.9%	26.6%	22.2%	23.2%
地域に密着している	43.2%	41.5%	15.9%	15.4%	10.3%	10.3%
自然環境が豊か	52.9%	51.6%	34.0%	33.6%	27.3%	27.0%
難易度	3.8%	5.5%	18.6%	19.8%	29.9%	29.3%
やりたいことが学べる	82.4%	81.5%	56.4%	57.5%	49.0%	51.1%
就職状況	9.4%	11.7%	7.4%	7.4%	6.0%	7.5%
資格取得	28.9%	27.6%	20.4%	19.6%	14.6%	14.9%
先生の勧め	18.1%	15.6%	12.2%	12.7%	17.1%	16.8%
親の勧め	11.6%	13.1%	13.7%	12.5%	13.1%	12.6%